櫂とアカ取り

船を操る上で欠かせないのが、櫂とアカ取りです。

櫂は水を掻いて船の推進力を得るための道具（オールまたはパドル）です。青谷上寺地遺跡からは約８０点が出土しており、材料には広葉樹のヤマグワが多く使われています。また櫂の両面に文様や絵画が線刻されているものもあります。櫂の形には、紡錘形や長方形などがあり、機能の違いによって作り分けられている可能性があります。

海や潟湖（ラグーン）を漕ぐための櫂

魚の線刻が施された櫂
（分かりやすいよう白線を付加しています）

アカ取り

アカ取りは、船内に溜まった水（‘アカ’と言います。）を汲み取るための道具で、チリ取りによく似た形をしています。

水を汲み取る本体部分と柄とを一木で作っており、柄をやや反らせて作り出し、水を汲み取りやすいように工夫しています。材料には、スギが多く使われています。